

千葉県感染症発生動向調査情報

2017年 第23週 (6/5-6/11) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		23週	22週	21週	20週
上段:患者数 下段:定点当たりの患者数 「定点当たりの患者数」とは 報告患者数/報告定点数。	小児科	18	18	18	18
	眼科	4	4	5	5
	インフルエンザ*	28	28	28	28
	基幹定点	1	1	1	1

定点	感染症名	千葉県					千葉県 5/29-6/4 22週
		注意報	6/5-6/11	5/29-6/4	5/22-5/28	5/15-5/21	
			23週	22週	21週	20週	
小児科	RSウイルス感染症		3	1	1	1	21
	咽頭結膜熱	○	10	6	8	5	129
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		64	65	60	48	577
	感染性胃腸炎		124	162	165	163	812
	水痘		10	12	10	7	86
	手足口病		20	14	20	10	65
	伝染性紅斑		2	1	1	0	10
	突発性発しん		15	18	19	21	94
	百日咳		0	0	0	0	0
	ヘルパンギーナ		6	1	3	2	55
	流行性耳下腺炎		6	7	3	6	46
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)		5	6	3	18	77
眼科	急性出血性結膜炎		1	0	0	0	0
	流行性角結膜炎	○	7	4	5	5	38
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0	0	0	0	0
	無菌性髄膜炎		0	0	0	0	1
	マイコプラズマ肺炎		0	0	2	0	4
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0	0	0	0	0
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		1	0	0	0	1

★★:流行中 ★:やや流行中 ○:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(4件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	40歳代	IGRA検査等	侵襲性肺炎球菌感染症	男性	80歳代	病原体の検出
急性脳炎	男性	10歳未満	高熱及び中枢神経症状	梅毒	男性	70歳代	血清抗体の検出

・第23週は、結核1件(99)、急性脳炎2件(9)、侵襲性肺炎球菌感染症1件(18)、梅毒1件(17)の報告があった。

※ ()内は2017年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第23週のコメント

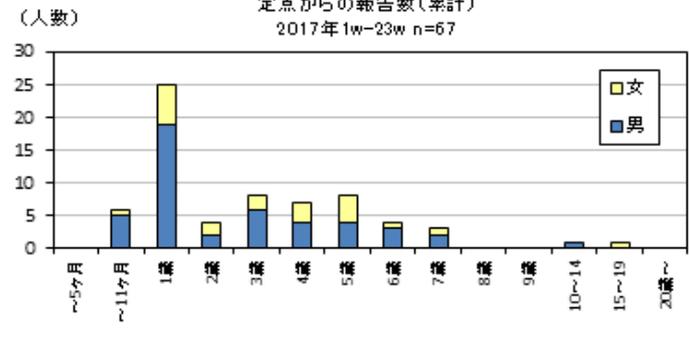
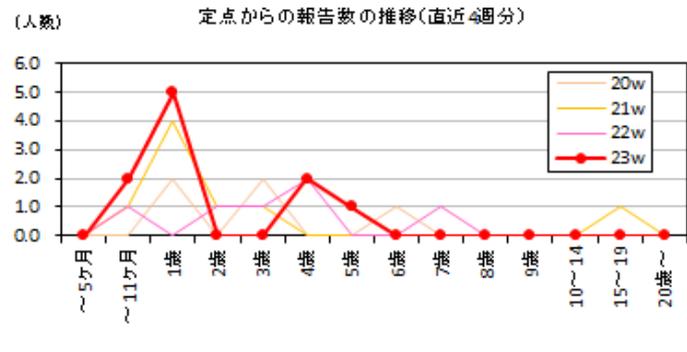
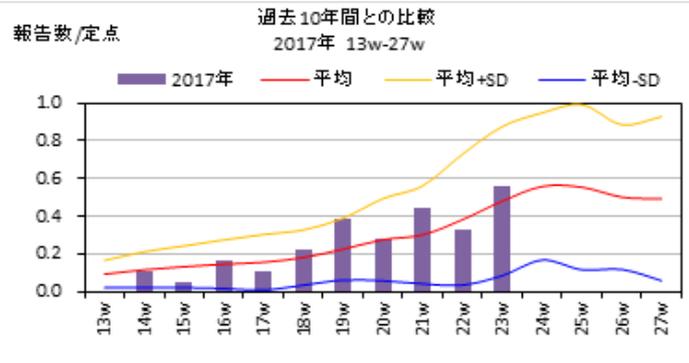
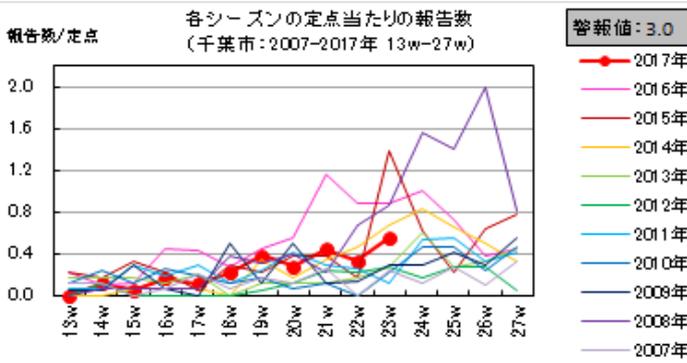
<咽頭結膜熱>前週より増加し0.56となった。過去10年の同期と比べるとやや多め。

<流行性角結膜炎>前週より増加し1.75となった。過去10年の同期と比べると多い。

■ トピック ■

＜咽頭結膜熱＞

全国レベルは第19週から過去10年の同時期と比べて最多のまま推移しており、第22週も同様となっています。都道府県別では、山梨県、北海道、奈良県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルとほぼ同レベルとなっています。千葉市では第14週から上下しながら次第に増加しており、2017年第23週は前週より増加し0.56となり、過去10年の同時期と比べるとやや多めとなりました。区別の発生状況は、中央区(1.33/定点)で最も多く、同区の1歳で最も多く発生報告がありました。2017年第1週から第23週までの累積報告数(n=67)によると、性別では男性が68.7%(46名)、女性が31.3%(21名)で、年齢階級別では1歳(37.3%:25名)、2歳及び3歳(共に11.9%:8名)の順に多くなっています。



＜流行性角結膜炎＞

全国レベルの2017年第22週は過去10年の同時期と比べると多くなっています。都道府県別では愛媛県、山口県、神奈川県で多く報告されています。千葉県は全国レベルより多めとなっています。千葉市の2017年第23週は前週より増加し1.75となり、過去10年の同時期と比べると多くなっています。区別の発生状況は、美浜区(7.0/定点)のみで発生報告があり、同区の1歳から60歳代まで幅広い年齢層で発生報告がありました。2017年第1週から第23週までの累積報告数(n=68)によると、性別では男性が51.5%(35名)、女性が48.5%(33名)で、年齢階級別では30歳代(25.0%:17名)、70歳代(13.2%:9名)の順に多くなっています。

